

パラワールド（The Hague Parasailing Champs 2023）レポート

2023 年 9 月 8 日

パラセーリング委員会

パラワールド派遣コーチ 水津岳太郎

【パラワールドでの成果】

パラワールドにおいて銀メダルを獲得した JSAF パラセーリング委員会の活動は、国際舞台で優れた実績を挙げた事実以外に多くの成功を収めました。

世界選手権メダリストが誕生したことから、パラスポーツ界におけるパラセーリングの認知度が飛躍的に向上しました。SNS 上での積極的なアプローチにより新たな支持層が増加し、新規のファンを獲得することにも繋がったと思われます。SNS アクセス数の増加からもそのことは伺えます。また、江ノ島やオランダをはじめとした各地域、団体、個人からもボランティア支援を受け、パラセーリングという枠を超えて今後につながる協力体制が構築されました。

これらの成果は、日本パラセーリング界全体にポジティブな影響を及ぼしたと感じます。

【問題点】

予算計画、遠征計画の策定が後手に回ったことが、計画の進行に悪影響を及ぼしました。遠征への派遣期間や参加条件・参加負担金を明確できなかったこと、プロジェクトリーダー不在のまま進行したことなどは最後まで現場の混乱要因となりました。ミーティング頻度を上げるなどして、次回からはコミュニケーション不足を改善する取り組みが必要かと感じます。

【将来に向けての提案】

世界選手権で銀メダルを獲得したことは、パラセーリング界に明るい光をもたらしました。パラリンピック競技からの落選やコロナ禍などの厳しい状況が続いた中、このニュースは日本のパラセーリング界に大きな盛り上がりをもたらしました。スポーツ界では、自国代表が世界大会で活躍することは、競技への注目度を高め、競技人口増加という普及面においても大きなインパクトを持ちます。このことから、今後も海外遠征の継続は必要と思いますが、課題もいくつかあります。

1. パラ世界選手権ではクラス分け MD（最低限の障害）が主流で、身体機能の高い選手が成績上位という傾向が見え始めています。国内においては、クラス分けポイン

トの低い選手や 2.3 クラスやサーボクラスの選手層も存在し、普及面からはこの層へのアプローチも必要です。

2. 競技の成績だけでなく、この層（2.3 クラスやサーボクラス）への派遣計画も考慮すべきだと思います。たとえば、インクルーシブ世界選手権やパラワールド団体競技への派遣は、その一例です。

このような取り組みを通じて、競技の幅を広げ、多様な層の選手が活躍できる環境を整えることが重要でないでしょうか。成績はもちろんですが、選手の多様性を尊重し、パラセーリング界を一層魅力的なものに育てていければ良いかと思います。

国内大会においても、より公平な競技環境を整えるため、世界に先駆けてハンザシングルクラスの成績評価にクラス分けポイントを導入することも興味深いです。これにより、競技者が公平に評価され大会がより魅力的になるかと思います。

【使用艇の部品問題】

さらに、パラワールドにおいては、アスリートのギリギリの操船によるハンザ艇のブームの強度不足が明らかになっています。ブームの規定を変えることは難しいですが、操船技術の面からこの課題に対処し、対策を見つけることも試みの一つです。

これらの取り組みを通じて、パラセーリング界の強化と普及を一体として推進することができればと素晴らしいと思います。